レジメン登録フォーマット

申請年月日	令和3年9月21日	使用開始日			
登録診療科	消化器内科・外科	申請医師	福永　睦	化学療法委員会承認年月	年　月
レジメン名	アービタックス【初回】＋エンコラフェニブ・ビニメチニブ				
疾患名	大腸がん	適応の備考	BRAF遺伝子変異を有する治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌 ※アービタックス＋エンコラフェニブ（ビラフトビ）の2剤併用の場合もこのレジメンを使用する。 アービタックス初回患者の1コース目の計画登録にはこれを用いる。アービタックスをすでに使用している2回目以降の患者、2コース目以降の登録には、アービタックス【2回目以降】を使用すること。		
適応分類	進行再発				
1コース日数	7　日間	総コース数	コース	催吐性リスク	最小度
抗がん剤投与量・投与日	アービタックス400mg/㎡ day1、ビラフトビ300mg/日 day1-7 、メクトビ90mg/日 day1-7				

治療スケジュール　・　投与日程（投与日は●）　　(day)

投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量	投与時間	1	2	3	4	5	6	7
1	主ルート	生食50mL	1 本 / body	15 分	●						
	点滴静注	デキサート注射液6.6mg/2mL	1 本 / body		●						
		ポララミン注5mg/1mL	1 本 / body		●						
		デキサート注は、3.3mgでも可	/								
2	主ルート	生食250mL	1 本 / body		●						
	点滴静注	アービタックス	400 mg / ㎡	2 時間	●						
			/								
3	主ルート										
	点滴静注	生食100mL	1 本 / body	1 時間	●						
			/								
	経口投与	ビラフトビカプセル	300 mg / 日		●	●	●	●	●	●	●
		1日1回朝食後									
	経口投与	メクトビ錠	90 mg / 日		●	●	●	●	●	●	●
		1日2回朝夕食後									
		※併用しない場合もあり									

※並行して投与する場合は、コメントを入力する。（例：Rp2とRp3を同時に投与開始する。）

【投与上の注意】

アービタックス：希釈は生食のみ。

アービタックス：前投薬として、アービタックス投与前に、ポララミン注及びデキサート注が必要。

アービタックス：投与終了後は、infusion reactionを観察するため、1時間の観察時間が必要であり、単独投与の場合は初回アービタックス投与後生食100mLを1時間かけて滴下する。

アービタックス：投与終了後は、本剤と同じ速度でラインを生食でフラッシュすること。

アービタックス：初回投与時は、400mg/㎡を2時間かけて投与、2回目以降は250mg/㎡を1時間かけて投与すること。

アービタックス初回患者の1コース目の計画登録にはこれを用いる。

アービタックスをすでに使用している2回目以降の患者、2コース目以降の登録には、アービタックス【2回目以降】を使用すること。

メクトビ：メクトビ（ビニメチニブ）を併用する場合には、関連学会の最新のガイドライン等を踏まえ、併用する理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
その場合は、併用が必要とした判断に用いた情報（ECOG PS、転移臓器数、CRP 値等）を具体的に記載すること。